

5) 美ら島自然学校の管理運営

仲松由美子¹・国広潮里¹・辻本悟志¹・藤原靖晃¹・西口峻平¹

キーワード：美ら島自然学校 地域連携 廃校跡地利用 地域活性化 ウミガメ

1. はじめに

当財団では、平成 21 年に閉校した旧名護市立嘉陽小学校の跡地利用事業者として、平成 26 年に名護市と賃貸借契約を締結し、平成 27 年に「美ら島自然学校」の運用を開始し、今年度で開校 10 周年を迎えた。正面には海、後方には山、古くからの地域文化が継承された集落やグスク時代の遺跡が所在するなど、豊かな自然と文化遺産に恵まれた立地条件の下、普及啓発の拠点として、また東海岸の動植物・歴史文化の調査拠点としての活用を図り、地域住民と連携した事業を展開した（写真-1）。



写真-1 美ら島自然学校（旧嘉陽小学校）全景

2. 実施結果

「太平洋を望む豊かな環境で、誰もが学べる自然学校」として、幅広い年齢層・知識層を対象とした事業を展開した。主な事業は、1) 一般向け事業、2) 調査研究利用、3) 学校向け事業、4) 地域連携、5) 施設管理の 5 つに区分される。令和 7 年 7 月に開校 10 周年を迎え、アニバーサリーイヤーとして新規事業を多数実施した。令和 7 年度の施設利用者総数は 8,553 名（前年度比 92.2%）であった。

1) 一般向け事業

県内外の団体によるウミガメや海洋ごみを題材としたプログラム利用が 7 件 193 名あった。近年、海洋ごみについての依頼が増えている傾向があるため、今後はプログラム内容の充実を図る。

ゴールデンウィーク及び春休みの特別企画として、ウミガメ飼育施設を活用した有料体験プログラム（飼育体験）を実施し、それぞれ 122 名、130 名の参加があった（写真-2）。継続的な事業実施と SNS 等

を活用した情報発信により、新規参加者の獲得およびリピーターの確保につながった。施設見学者への聞き取り（462 件）の結果、県内からの来校者は約 65%で、来校のきっかけは口コミが最も多く（約 33%）、その多くが地域からの紹介（約 87%）であった。このことから、地域からの協力が大きな力となっていると考えられる。リピーターの割合は約 35%と昨年度と同程度で、友人や家族を同伴して来校する事例も見られた。海外からの来校者は 25 件と増加傾向にあった。

また、令和 6 年 6 月から運用を開始した美ら島自然学校公式 Instagram のフォロワー数は、3 月末時点で昨年度の約 3 倍に増加し、SNS をきっかけに、イベントや学習会に申し込んだ参加者も増えている。今後は、美ら島自然学校周辺環境の魅力発信の場としてさらに強化していく。

開校 10 周年を記念したオリジナルグッズの制作・配布を通じ、認知度向上を図った。「10 周年記念ステッカー」は来校者に配布し、「10 周年記念サコッシュ」は教材等の購入特典として配布した（写真-3）。



写真-2 ウミガメ飼育体験プログラム



写真-3 10 周年記念サコッシュ

¹ 普及開発課

2) 調査研究利用

ウミガメ飼育施設では、沖縄美ら海水族館ウミガメ館生まれの幼体の飼育調査を継続するとともに、7月～8月に前年度生まれの幼体の標識放流を行い、回遊調査を実施した。併せて、さらに、ウミガメ類の産卵痕跡調査及びストランディング調査を行い、調査結果を一般向け催事資料や校内展示に活用し、周辺自然環境の現状を来校者に周知した。

また、新たな展示として、校内樹木の種同定を行い、樹名板(21種類)を設置した(写真-4)。あわせて、地域の伝統行事や地域活動への参加を通じ、文化に関する情報収集を行った。

このほか、研究機関や高校生物部による周辺海域調査を目的とした施設利用7件を受け入れたほか、総合研究所職員による調査利用を継続した。

地域連携事業として名護東海岸フラワーフェスティバルに参加し、植物研究室と連携して苗木の無料配布および校内花壇でのベニバナ栽培展示を行った。栽培展示では、花色の異なる系統(橙色、黄色、白色)を用い、特徴や利用、色素(化学物質)の違いについて解説するとともに、関連学習プログラムとして「ベニバナを使ったハンカチ染め体験」を実施した(写真-5)。



写真-4 校内樹木の樹名板



写真-5 ベニバナを使ったハンカチ染め体験

3) 学校連携事業

県内北部地域の小学校や教育委員会等と連携し、年3回以上の学習を継続して行う「通年学習プログラム」及び1～2回完結型の「短期学習プログラム(出前授業)」を展開した(詳細は「やんばる環境学習」参照)。また、県内の修学旅行等では5校217名の利用があり(写真-6)、さらに県外修学旅行による施設見学も受け入れた。



写真-6 県内小学校による修学旅行利用

4) 地域連携事業

(1)民泊の受け入れ

地域の民泊事業者と連携し、県外中高校生および一般を対象とした施設案内を29件(372名)実施した。地域海岸へのウミガメの産卵や、旧嘉陽小学校でのウミガメ学習活動が現在の美ら島自然学校に継承されていることを紹介し、ウミガメの生態や地域環境についての理解促進を図った。

(2)地域の施設利用

久志駅伝大会(今年度は中学生の部のみ開催)において、550名の利用があった。また、グラウンドを利用して、地元嘉陽区・安部区合同による区民運動会が開催された(写真-7)。このほか、地域連携の一環として、嘉陽区豊年祭(稲作節出演)や二見以北10区ハーリー大会に財団職員が参加した。元日には初日の出見学者向けにグラウンドを駐車場として開放し、車両誘導を行った。

また、ドクターヘリの離着陸場としてのグラウンド利用が3件あった。



写真-7 嘉陽区安部区合同区民運動会

(3)地域連携型催事

11月に「第5回ウミガメまつり」を開催した。本催事は、久志地域の魅力発信を目的として実施しており、美ら島自然学校からはウミガメの観察会や、動物研究室と連携したサメの解剖教室、美ら海移動水族館による魚類展示等を実施した。あわせて、地域団体による体験・飲食ブースの出店があり、延べ574名が来校した。フィナーレでは、嘉陽区民の理解と協力のもと、本来は限られた場面で

しか披露されない郷土芸能「稲作節」をプログラムに組み込むことができた（写真-8）。

また、開校 10 周年を記念し、嘉陽共同店および美ら島自然学校の相互利用促進を目的とし、コラボ商品の販売を開始した（写真-9）。



写真-8 第 5 回ウミガメまつり（フィナーレの稲作節）



写真-9 嘉陽区コラボ商品（手ぬぐい）

3. 外部評価委員会コメント

老朽施設の適正な使いまわしに苦勞もあるようで、ご苦勞様。展示を含め、5 件の新たな取り組みがあり、この先も年々増やして取り上げるイベントを開拓し続けて頂きたい（実施できるイベント数を増加させるだけでなく、いたずらな繰り返しを避けることもできる）。周辺で見られる鳥類について毎月更新が行われているのはとても良い取り組みであるが、年間に延べ何種見られるかも表示しておくとのいのではないか。また、地域連携もうまくいっているようで、廃校が自然学校として残されて活用され、よかったと受け止められているように感じられる。

（西平顧問：琉球大学名誉教授）

5) 施設管理

施設の劣化や不具合箇所について、月 1 回の点検および日中の巡回点検を実施し、夜間は防犯カメラとセキュリティシステムによる機械警備を行った。

また、安全教育（救命講習）や各種防災訓練（写真-10）、防災マネジメントシステムに伴う査察を実施するとともに、不審者侵入対策として、教室の鍵の取替えおよび新設を行った。



写真-10 消防訓練（総合）